



## 白いころ

### 「世界で一つだけの薬」

この病気には、この薬。あの病気には、あの薬。

学生のころ、薬剤師は

決まった薬だけを用意する単調な仕事だと思っていた。

「薬のことだけを考えていればいいのだ」と。

この病院で勤務を始めて

入院患者さんに服薬の説明をした時、初めて気づいた。

薬の先には”人“がいて、そこには”命“があることを。

薬剤師になって3年、今は違う。

世の中には膨大な数の薬があり、それぞれに長所と短所がある。

同じ薬など一つとしてない。

人も同じだ。

体質、病歴、アレルギー、患者さんの体はすべて違う。

同じ症状の人など一人もいない。

「この患者さんに一番合う薬はどれか?」「副作用は起きないか?」

医師から預かった処方箋をもとに、今日も自分に問いかける。

簡単じゃない。プレッシャーもある。

でも、だからこそ、もつと学びたい。

真剣に病に立ち向かっている患者さんの気持ちに、負けないように。

薬剤師(調剤室勤務) 澤田 友宏